

「高め合い 認め合い 楽しく学び合う 小鹿野小学校」

学校だより



学校教育目標 ○仲良く力を合わせる子 ○明るく元気な子 ○進んで学習する子
小鹿野町立小鹿野小学校 5号 令和2年 7月30日 発行

「夏休みです！ 家族のふれあいを大切に！」

校長 坂本 勉

前号は「過保護・過干渉」について書きました。今回は「甘やかすこと」と「甘えさせること」について書きます。ほめて育てることは、とても大切です。ほめるとは、その子のよい部分を「よい」と伝えることです。認めることであり、評価してあげることです。しかし、ほめることと、甘やかすことの線引きは必要です。甘やかすとは、周りの大人の都合で子供に何かをさせようとしたり、親の都合で子供に言うことをきかせようとしたりすることです。この甘やかしの例が前号で書いた、子供ができることをさせないで、先回りして大人がやってしまったり、必要以上に干渉したり、危ないから、心配だからと子供がやろうとしていることをやらせない「過保護・過干渉」という甘やかしです。

それに対して「甘えさせる」はあくまでも、子供が主体で、子供のペースが守られている状態です。「甘える」ということは、本来とても良いことなのだと私は思います。それは、子供がどうしてもできないことを手伝ったり、子供の思いを受け止めてそれに応えてあげたりすることで、子供は愛情を受け取れるからです。相手を信頼しているからこそ、親や大人に甘えることができるのです。

一方で、子供の甘えを親が受け止めてあげられないと、子供は親からの拒絶感を感じ、親から自分は信頼されていないという思いを持つことになります。

十分甘えさせてもらった子供は、人を信頼するようになり、情緒も安定します。子供が成長する過程で、必要なのがこの「甘え」なのではないでしょうか。身近な大人との関係の中で、しっかり甘えさせてもらった子供は「自己肯定感」が育っていきます。「自己肯定感」が高まると、失敗しても必要以上に自分を責めることなく、人に助けを求めたり、自分の弱い部分を見せることも恐れません。また次に頑張ろうという意欲に切り替えることもできます。こうした子供は、人を信じる力も強く、相手に対する思いやりも深くなります。子供は甘えが満たされることにより「自分は愛されている」と感じられ、その揺らぐことがない「安心感」が土台となり、成長でき、自立に向かうことができるのです。

それに対して、子供のとき、甘えが満たされていないと、愛されているという実感が持てずに不安になりやすく「自己肯定感」は低くなります。

そして、自分に対しての強い不安が、周囲に対しての不信感につながり、相手の言動に対して感情的になり、攻撃的になって人間関係でも摩擦をおこしやすくなるのだと思います。

そうはいっても「甘やかすこと」と「甘えさせること」の線引きは難しいです。今の言動は、「甘やかしたのか、甘えさせたのか。」など、時には振り返ってみることも必要なかもしれません。

今年の夏休みは、19日間と例年よりも短い休みです。子供たちが家族のみなさんに甘えられる場面や時間を数多く作っていただけると幸いです。子供が親に甘えてくる期間は短いのですから…。